

神崎市水源地域活性化推進会議
第3回全体会議

作業部会の活動報告と当面の方針

方針-1 脊振山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

○森林の保全・山の利用について

「植林⇔育林⇔利活用」のサイクルを確立し、豊かな森林にしていく活動を進める

- 間伐の促進やバイオマス活用を、私有林を含めた地域全体の取組として実施
- 漁協や企業など多様な団体との協働ができるような働きかけ
⇒上記の活動に森林環境譲与税を効果的に活用
- 間伐推進によるJ-クレジットを活用したカーボンオフセットの推進(農林水産課林業係)

○里山の環境・景観の保全について

- 神埼町域の里山と田園の景観を後世に残していくための取り組みの推進
- 休耕田や空き家を活用した取組(学生にも協力をお願いしながら)
- 周辺地域の散策ルート化(方針-2とも連携しながら)

地域の人たちを巻き込んでいけるように、まずは地域の資源や行っている活動を知ってもらう

部会-1 脊振（せぶり）山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

◆各主体が個別に行ってきた森林保全活動の協働化による取組の拡大

神崎市は市域の46%を森林が占めており、森林資源の保全・活用は、ダム水源地域の自治体としても重要な課題です。作業部会に参画している団体の中でも、森林の保全・育成活動を実施。



森に親しむ活動（森林をつくろう）



脊振山登山道整備（脊振を愛する会）



「漁協の山」活動
（佐賀県有明海漁業協同組合）

➡ 今後は、こうした取り組みを協働で実践拡大を目指す。
野外体験や木育を通じて、森林保全・管理への感心を高める。

【課題】各組織の高齢化と人手不足

➡ 関係人口の増大を図る。

部会-1 脊振（せぶり）山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

◆森林環境譲与税の林業体験学習、木育等への活用

- 国民が等しく納める「森林環境税」は「森林環境譲与税」として各自治体に配分され、自治体の森林資源の管理などに活用されています。神崎市ではこの財源を民有林の間伐等に活用されている。



高取山感謝祭にあわせて農林水産課林業係主催による植樹会を実施

【他自治体における森林環境譲与税活用事例】



自治体連携による小学生林業体験（大阪府豊中市）



植樹祭（富山県上市町）

木育キャラバン（群馬県高山村）



今後は、林業事業者やNPOなどと連携し、財源の活用の拡大を目指す。

令和5年版 森林環境譲与税の取組事例集（林野庁）
https://www.soumu.go.jp/main_content/001001828.pdf

部会-1 脊振（せぶり）山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

◆神崎市によるJ-クレジット認証の取組

- 「ゼロカーボンシティ」を目指す神崎市ではカーボン・オフセットの取組のひとつとして、森林資源を活用した「J-クレジット制度」の活用を推進。取組が国に認証されると市内企業などとのクレジットの売買を行うことができ、その収益を活用し、市内の森林整備をすすめることができる。
- R7年度J-クレジット事務局(国)へ計画書登録完了

【神崎市の事業スケジュール】

- プロジェクト計画書作成(R5年度作成)
[R6年度～R7年度]
- 認証審査のための現地調査等
[R8年度～R14年度]
- J-クレジット事務局(国)へ認証審査申請
・認証取得後、クレジット売買を実施する。



➡ 今後は、承認申請に向けて手続きを行う。

J-クレジットのしくみ (J-クレジット事務局)
<https://japancredit.go.jp/about/outline/>

方針-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築

○歴史・文化資源等をつなげた観光振興

- 歴史・文化資源の価値を把握するための調査を実施
 - ⇒仁比山神社山門の仁王像について県指定文化財への格上げ要望を実施
- 広滝第1発電所の活用方策検討(近代文化遺産として位置づけ)
- 国の環境調査結果や市史制作の際に集めた情報を用いた講座の開催
 - ⇒神埼塾の活用(神埼情報館にて企画・実施)
- 脊振の伝統料理を再現

○水文化の継承、水車の活用

- 小湊水車の稼働率向上による水車米の増産と販路拡大 ⇒スタンプラリーの実施
- 城原川の治水の歴史などを整理し、地域の資源を空間的につなぐ
- 仁比山公園付近など河川沿いを親水公園として川遊びができる場所の復活
(方針-1、3でも同様の意見あり)

部会-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築

◆歴史・文化資源の保全・活用を進めて後世に伝える

- 市内には歴史・文化的資源が多くありますが、これらの中には文化財としての価値が評価されていなかったり、十分な保全措置が取られていないものも多くあります。



地域の大切な財産であるこれらの資源をきちんと後世に伝えていくための活動や市民への啓発を進める。



石宝殿



仁比山神社
山門・仁王像



脊振神社（下宮）



山岳信仰の遺構・伝承



脊振小学校石門



城原川の伝統的治水工法（野越・霞堤）

部会-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築

◆小湊（おぶち）水車を利用した水車米のブランド化、水車米の増産と販路拡大

- 小湊地区の「水車の里振興会」は、水車の里に復元された水車を利用して精米した米を「水車米」として加工・販売しています。
- 昨年度から精米作業の時間を延長するなど、水車米の生産量を増やすための取り組みを推進中です。今年度で2回目となる**九年庵・水車の里スタンプラリー**との連携で来訪者が増加し、用意していた水車米は完売しました。



精米用水車（内部）



保管用に購入した保冷庫



ついた米の選別作業



販売用の水車米



現地での水車米販売



来訪者とのふれあい



今後スタンプラリー等を活用した、水車米のPRを進める。

部会-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築

◆活動組織の取組と課題

○活動組織の取組

- 倉谷地区を拠点として活動する「脊振を愛する会」は、6月の「あじさい祭り」や11月の「かかし村」など年間に7~8回のイベントを実施。

○取組の課題

- 高齢化が進み活動に支障をきたしている。

➡ 新たな活動団体との連携や学生の力を借りるなど、他の組織との連携を模索。

■かかし村(11月)



方針-3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

○農・特産品のブランドづくり

- 高齢化する農業生産者を支援するための仕組みづくり
⇒生活必需品の宅配と庭先集荷を兼ねたような流通、共販の仕組みづくり
- チャレンジファーム等を広く周知して、農業の担い手の確保・育成
- 耕作放棄地や空き家も絡めた市民農園、農地付宅地等の創出による関係人口や移住者の増加
- 地元の特産品を使ったレシピを県へ出品⇒特産品の情報発信によるブランド力向上

○新たな魅力の発掘・創出

- 高取山公園の利活用増進(県道からの誘客を増やす取組)
⇒アンブレラアート、農産物の販売促進、顔はめパネル、
- 城原川を活かす取組⇒水遊び、溪流釣りができるような遊歩道整備、過去に行われていた魚の放流など

部会-3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

◆通年のイベントの企画・開催による高取山公園の活性化

- 高取山公園では「脊振町わんぱくまつり」等のイベントを行ってきました。
- ここ数年実施中の秋の「高取山公園感謝祭」は、通年イベントとして定着しつつあります。
(アンブレラボール、朝ヨガ、マルシェなど)



出荷部会のお母さんたちが作った食事メニュー
(高取山公園Instagramより)



高取山公園感謝祭の様子



ダムの機能を紹介する模型
(国土交通省佐賀河川事務所)



(右上)野外コンサート
(上)マルシェに参加したキッチン
カーや出店の一部



通年(特に冬期)の集客を図るために、
更なるイベントを企画していく。

部会-3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

◆関連イベント等との連携、地域との協働（高取山公園を中心に）

【顔はめパネルの作品募集】



R6年11月に佐賀県主催で実施されたイベント「YAMAOZUM祭」にて募集した顔はめパネルが今年度完成してお披露目されました

【脊振の子供たちとアンブレラボールづくり】



部会3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

◆地元特産品等の販売拡大による地域経済の活性化

- 地域の高齢者が作る農作物や加工品とそれを販売する直売所や新たな販路(ふるさと納税返礼品、移動販売など)を開拓することで、生きがい就労の確保と地域経済の活性化を目指します。
- R7年度は、高取山公園が休みの水曜日にかんざき遊学館で「脊振の日」を設け、物産販売を実施。



岩政ハッピーサロン



高取山公園わんぱく館

ふるさとロッジかじか



今後は、このような取組を継続して実施していきたい。

部会3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

◆取組の課題

【課題】農業生産者の担い手不足

〈対策1〉 チャレンジファーム等による担い手の確保・育成

〈対策2〉 農作物や加工品を販売する新たな販路の拡充・開拓

・高取山公園、遊学館の販売の拡充

・ふるさと納税返礼品、移動販売などによる販売の拡大

ピーマンチャレンジファーム



脊振・三瀬園芸振興協議会

チャレンジファームの参加者

令和5年度 1名

令和6年度 1名

令和7年度 0名



ふるさと納税サイト

方針-4 まちの働く場づくり、安らげる住環境の整備及び教育環境の支援

○移住者支援・定住人口の確保

- 空き家バンクの活用促進。農地付き空き家の譲渡に関する法改正等を踏まえた菜園付き宅地を求める層をターゲットとした売り込み
- 学校給食のオーガニック化による地産地消の取組など、安定した農産物の供給先を確保することで、就農者の増加に寄与
- 既存の施設・資源(鳥羽院山荘、脊振山麓習遊館等)を、人が呼び込める交流施設としてどのような形態にするかを考える ⇒佐賀大の学生が学習テーマとして検討中

○交流・体験活動及び教育環境の支援

- 脊振小学校・中学校の入学者確保の取組⇒都会では味わえない体験の充実
⇒神埼市の山村留学事業との連携

○交通施設の整備、交通手段の確保

- 付替道路(県道)について、桜街道の維持・延長、災害時代替市道の整備

部会-4 まちの働く場づくり、住環境の整備及び教育環境の支援

◆地域の子供達に野外における交流・体験の機会を提供 (農・林・食の体験授業、山村交流を地域の協力で実施)

- 「**せふりの風**」では子供たちへ農業を通じた体験学習支援や、市外からの農業体験希望者の受け入れなどを行っています。
- 脊振小中学校の児童生徒とその保護者、職員によって構成される「**脊振育友会**」は親子による清掃やふれあい活動を実施。
- R7年度は8月に「**山村留学**」を初めて実施。

→ ・活動に地域のお年寄りも巻き込んで、活動のメニューを更に広げていきたい。
・山村留学は、より長い滞在ができるようプログラムの充実を図る。



学習田での体験活動



【脊振育友会の活動】



親子料理教室

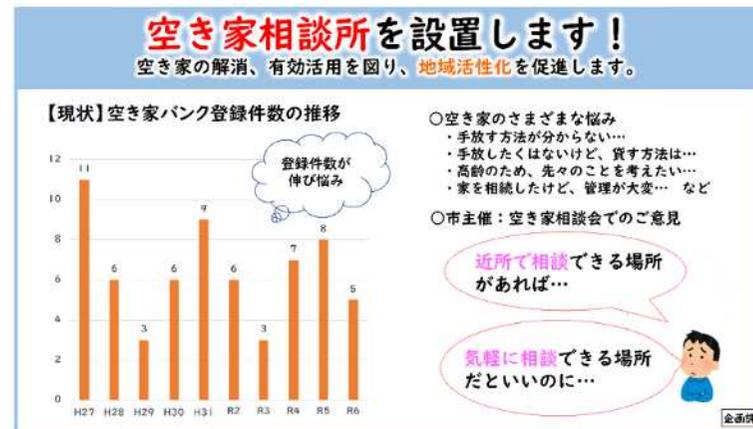


親子ふれあい美化活動

部会-4 まちの働く場づくり、住環境の整備及び教育環境の支援

◆空き家バンクへの登録数増加と空き家の利活用の推進

- 空き家バンクの更なる普及と空き家の流動化を目指して、**行政と空き家所有者の間に地域が関わる**ことで、より効果的な空き家対策が進められるような体制づくりを検討します。
- R7年度は、空き家相談所を新たに9カ所設置。



➡ 今後も空き家対策の取組を進めていく。

部会-4 まちの働く場づくり、住環境の整備及び教育環境の支援

◆宿泊・研修施設の利用促進

- 市の宿泊施設である「久保山ロッジ」は老朽化が進んでおり、利用者が減少傾向にあります。また、他の野外学習の拠点である「鳥羽院山荘」、「脊振山麓習遊館」についても集客が伸び悩んでいます。
- 一方、コロナ以降は企業のリモートオフィス化や大学等教育機関の学外研修、田舎体験の人気により、都市を離れた山間地での宿泊や移住体験のニーズは高まっている。こうした需要に答える形で上記施設のリニューアル(ネット環境の充実)が望まれます。



久保山ロッジ



鳥羽院山荘



脊振山麓習遊館



脊振町のネット環境の整備を検討していきたい。

部会-4 まちの働く場づくり、住環境の整備及び教育環境の支援

◆活動を推進する上での課題など

○移住を実現させることの難しさ

- 約3年前から農業体験を希望するゲストを受け入れている中で、昨年初めて移住者を迎えられました。
- その受入れの中で問題点が多く出てきました。
- しかし、すぐに住める空き家を見つけにくいのが現状。



行政・地元と移住者をマッチングする「中間支援組織」の具体化について検討中。



方針-5 わかりやすい情報発信、世代や地域を越えた上下流交流の促進

○わかりやすい情報発信

- 城原川に関する歴史、物語は市内の地名や史跡として数多く分布。城原川ダム事業(治水)と地域の歴史を繋ぐ接点としてストーリー化
- 水源地域の自然環境や歴史文化についての講座を神埼塾で実施(大人向け)、それを基に子供向けの読本に作り替え、誰にもわかりやすいものとして保護者にも波及
- ダム事業の建設段階の見学会の実施など、更なるダム事業の情報公開

○水源地と下流受益地の住民への地域活性化の意識づけや上下流交流の推進

- 地域の魅力発信は、今あるものを磨いたり、周知方法を工夫して取り組む
⇒デジタル化やSNSを使った発信など→活性化推進会議のアカウントの運用
- 城原川ダムの水源地域と下流地域の上下流交流の促進
⇒下流小中学校への出前授業、水源地域への感謝のつどいを実施
⇒市政20周年イベント、県の「山の博覧会」への参加を検討

部会-5 わかりやすい情報発信

◆ SNSアカウントの開設・関連サイトとの連携

- 水源地域活性化推進会議のインスタグラムアカウント「つなぐ城原川プロジェクト」を開設・公開しました。また、市のHPにも専用バナーを公開中です。
- 高取山公園のインスタグラムは相互リンクして作業部会メンバーの団体の活動なども含めて情報発信を行っています。今後も引き続き地域の情報を発信していきます。



公式インスタグラム



神崎市HP内バナー

→ 定期的な発信のための各部会からの情報提供の体制づくりを進めたい。

部会5 わかりやすい情報発信

◆まちの歴史や川の文化に関する講演会や研修の実施

- 地域の資源としての城原川の歴史や古来からの治水の取組みなどを広く紹介していきます。
- ダム事業者である国土交通省と連携し、城原川ダム事業に関する市民への情報発信等も進めていきます。



○城原川に関する講演会
(神埼塾にて)



○河川見学ツアー
(水の郷再生市民会議)



➡ まずは、市民の人たちに、地元の良さを知ってもらえるような取り組みを進めたい。

部会5 わかりやすい情報発信

◆世代や地域を超えた上下流交流の推進（水の郷再生市民会議との連携）

- 城原川の上下流交流の契機として、下流域の小中学校で流域治水に関する「**出前講座**」、水没地域の方々に感謝を伝える「**城原川上下流域懇談会－城原川ダム水没地域への感謝のつどい－**」を実施した。

○小中学校出前講座（9月）



○城原川上下流域懇談会（12/7）



➡ 今後も継続して上下流の交流を進めたい。

部会5 わかりやすい情報発信

◆活動を推進する上での課題など

OSNS講座開設に向けて

- 地域の情報発信にあたってのSNSの効果は絶大です。しかしながら、SNSを活用している人は増えているものの、自ら情報発信を積極的に行っている人の数はまだまだ多くないのが現状です。
- 一人ひとりがメディアという時代の中で、作業部会メンバーや脊振でお店や事業をやっている方々も自ら発信していけるような手助けをしていきたい。

➡ 今後は、「SNS講座」の開催など、情報発信の強化を図る。
(情報館、公民館での講座開設、WEB講座など)

